

# 平成 22 年度 事業 報告

(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

## I. 事業 の 概 況

当財団は、昭和 42 年 8 月設立以来、わが国の健康上の課題である「生活習慣病」に関する事業を一貫して展開している。

平成 22 年度も三本の柱である「医学研究助成」「生活習慣病集団検診」「健康増進」事業の更なる効率化と予算の有効活用に注力して事業活動を行った。

### 1. 医学研究助成

第 43 回医学研究助成は、全国の大学・研究機関の研究者を対象に公募を行い、48 件の推薦応募の中から 20 研究に対して助成を行った。第 19 回特別助成の 3 研究と併せて、総額 2,450 万円の助成金を贈呈した。

第 1 回からの助成金合計は 891 件、総額 10 億 5,900 万円となった。

### 2. 生活習慣病集団検診

検診事業は、7 項目(胃部、胸部、循環器、血液、便、眼底、VDT)の集団検診を実施した。年間延受診者数は 41,158 名で、前年度に対し 2,679 名の減少(対前年 93.9%)となった。検診業務開始以来の延受診者数は 1,785,091 名となった。

### 3. 健康増進啓蒙活動

主な活動として健康増進に関する情報発信・講演会の開催、集団検診に係る調査研究活動を行った。

平成 22 年度の各事業の実施状況は、次頁以下のとおりである。

## 1. 医学研究助成

### (1) 第43回「医学研究助成」

48件の推薦応募があり、選考委員会を経て20研究を決定、平成22年9月16日に贈呈式を行い、1研究につき100万円、総額2,000万円の助成金を贈呈した。助成対象者は【別表】のとおりである。

### (2) 第19回「医学研究特別助成」

第41回研究助成(平成20年度)入選者の研究報告20件を対象とし、選考委員会を経て3研究を決定、第43回医学研究助成と同日の贈呈式で、1研究につき150万円、総額450万円の助成金を贈呈した。助成対象者は【別表】のとおりである。

#### <第1回からの助成金累計>

	平成22年度		累 計	
	件 数	助成金額	件 数	助成金額
医学研究助成	20件	2,000万円	819件	9億7,800万円
特 別 助 成	3件	450万円	72件	8,100万円
合 計	23件	2,450万円	891件	10億5,900万円

### (3) 第41回「医学研究助成」研究報告の発表

第41回研究助成入選者の研究報告を、当事業団発行の「医学研究助成研究報告集」に掲載し発表した。

### (4) 第44回「医学研究助成」(平成23年度実施)

平成23年1月、ホームページ及び毎日新聞に募集要項を掲載した。また、推薦依頼機関(大学・研究機関)に募集要項を送付し、推薦を依頼した。

第44回研究課題は次のとおり決定している。

- ①生活習慣病予防の運動療法
- ②大動脈瘤
- ③不眠
- ④肝臓病の画像診断

\*応募締め切りは平成23年5月20日。

## 第43回「医学研究助成」20研究 総額2,000万円／1研究100万円

- 研究課題 1. 動脈硬化の新しいバイオマーカー(臨床研究)  
 2. 術後リンパ浮腫の治療  
 3. 認知症の早期診断  
 4. 膵癌切除成績向上のための患者選択

(課題別 研究者五十音順)

課題NO	研究者	研究主題
1	信州大学医学部附属病院 助教 伊澤 淳	動脈硬化の新しいバイオマーカー (臨床研究)
1	東北大学大学院医学系研究科 助教 佐藤 公雄 他3名	動脈硬化プラーク破綻の新しいバイオマーカー発見と予防法の開発
1	東京大学医学部附属病院 特任准教授 鈴木 亨 他2名	動脈硬化の早期発見のための新規バイオマーカー開発ならびに臨床解析
1	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 西堀 正洋 他3名	新しい動脈硬化症マーカーとしてのHMGB1の動態と病態形成における役割
1	千葉大学大学院医学研究院 講師 南野 徹 他3名	老化シグナルを指標とした新しい生活習慣病評価法の開発
1	神戸大学大学院医学研究科 准教授 力武 良行 他1名	冠動脈疾患における石灰化に関する血中バイオマーカー測定の臨床的意義
2	京都府立医科大学 助教 浅井 純 他2名	自己末梢血由来培養マクロファージ移植による術後リンパ浮腫治療に関する基礎研究
2	癌研究会有明病院 医長 宇津木 久仁子 他4名	リンパ浮腫の予防と治療において複合的理学療法は有効か?
2	信州大学大学院医学系研究科 教授 新藤 隆行 他1名	リンパ浮腫発生におけるアドレノメデュリン-RAMP2システムの意義と治療法開発への展開
2	静岡県立静岡がんセンター 部長 中川 雅裕 他7名	癌術後リンパ浮腫に対する集約的治療および術中リンパ管細静脈吻合術の予防効果に関する検討

課題 NO	研究者	研究主題
3	新潟大学 脳研究所 助教 池内 健 他1名	髄液中バイオマーカーによるアルツハイマー型認知症の早期診断
3	東京都神経科学総合研究所 副参事研究員 内原 俊記 他2名	$\alpha$ シヌクレイン沈着の最早期病変と軸索内伸展からみるレビー小体病と認知症の早期診断
3	日本医科大学武蔵小杉病院 准教授 北村 伸 他6名	軽度認知機能低下によるアルツハイマー病発症の予知
3	東京都精神医学総合研究所 主席研究員 細川 雅人 他1名	前頭側頭葉変性症の臨床診断法の開発
3	東京医科大学 主任教授 松岡 正明	ヒューマニン/ヒューマニン様分子の血中/髄液中濃度測定によるアルツハイマー病早期診断検査の開発
3	鳥取大学医学部 講師 和田 健二	レビー小体型認知症の早期診断のための血液バイオマーカー候補蛋白の精製同定とアッセイ系構築
4	東京大学大学院医学系研究科 講師 青木 琢 他1名	膵癌切除成績向上のための方策—患者選択および術後補助療法併用の効果の検討—
4	九州大学大学院医学研究院 特任助教 大内田 研宙 他3名	膵癌切除成績向上のための患者選択を目指したmetabolic profilingによる新しい個別化治療マーカーの開発
4	東京慈恵会医科大学 准教授 小井戸 薫雄 他1名	膵癌アジュバンド療法による患者選択
4	大阪府立成人病センター 医長 高橋 秀典 他2名	膵外浸潤陽性膵がんに対する術前化学放射線治療と切除後の完全治癒例を予測・選別するための研究

## 第19回「医学研究特別助成」3研究 総額450万円／1研究150万円

(第41回(平成20年度)「医学研究助成」研究報告を対象)

- 研究課題 1. インスリン抵抗性改善の介入研究  
 2. 急性心筋梗塞のリハビリテーション  
 3. C型肝炎—最近の治療の進歩  
 4. マイクロ手技による再建手術の新たな展開

課題 NO	研究者	研究主題
1	奈良県立医科大学 助教 成瀬 勝彦 他5名	アディポネクチンヲ指標とした妊娠糖尿病および妊娠高血圧症候群の早期予知と介入効果～インスリン抵抗性周産期疾患の減少を目指して～
1	滋賀医科大学医学部附属病院 医員 森野 勝太郎 他2名	インスリン抵抗性に対する魚食介入の有効性及び分子機構の検討
3	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授 池田 正徳 他1名	治療抵抗性C型肝炎ウイルスに対する新しい治療法の開発

## 2. 生活習慣病集団検診

本年度の延受診者数は、全検査項目(7項目)合計で41,158名、前年度に対し2,679名の減少(対前年93.9%)となった。

各項目の内訳は次のとおりである。

<検査項目別受診者数> (単位:名)

検査項目	平成22年度	平成21年度	増減
胃 部	6,672	6,903	△ 231
胸 部	8,511	9,279	△ 768
循環器	8,177	8,803	△ 626
血 液	8,291	9,299	△1,008
検 便	4,539	4,491	48
眼 底	3,070	3,238	△ 168
V D T	1,898	1,824	74
合 計	41,158	43,837	△2,679

(注) △は減を示す。

職域団体と地域団体の受診者割合は、職域70%・地域30%と職域の割合が高い。

\*検診事業開始以来の延受診者数は1,785,091名となった。

### (1) 検査項目別要精検率

検査項目	受診者数	要精検者数	要精検率
胃 部	6,673名	615名	9.2%
胸 部	8,422	129	1.5
循 環 器	血 圧	1,267	15.0
	尿	322	3.8
	心電図	77	0.9
血 液	8,244	2,328	28.2
検 便	4,561	296	6.5
眼 底	3,069	624	20.3

(注) 平成22年1月～12月の受診者9,948名を対象とする。

## (2) 胃部要精検者の追跡調査結果

(1)の胃部要精検者について、追跡調査を行った結果は次のとおりである。  
(平成 23 年 3 月末現在)

### ① 精検受診および回答状況

要精密検査者数	615 名
精検受診回答者数	361 名
精検未回答者数	254 名

### ② 精検受診回答結果の内訳

胃がん	3 名 (0.04%)
胃ポリープ	67 名 (1.00%)
胃潰瘍	26 名 (0.39%)
胃炎	156 名 (2.34%)
その他	52 名 (0.78%)
異常なし	57 名 (0.85%)
合計	361 名 (5.41%)

- (注) 1. 胃潰瘍には潰瘍瘢痕を含む。  
2. その他は十二指腸潰瘍、胃粘膜下腫瘍など。  
3. ( ) 内は胃部受診者数(6,673 名)に対する占率。

## (3) 大腸要精検者の追跡調査結果

(1)の大腸要精検者について、追跡調査を行った結果は次のとおりである。  
(平成 23 年 3 月末現在)

### ① 精検受診および回答状況

要精密検査者数	296 名
精検受診回答者数	165 名
精検未回答者数	131 名

### ② 精検受診回答結果の内訳

大腸がん	1 名 (0.02%)
直腸炎	2 名 (0.04%)
腺腫性ポリープ	58 名 (1.27%)
非腺腫性ポリープ	11 名 (0.24%)
その他	44 名 (0.96%)
異常なし	49 名 (1.07%)
合計	165 名 (3.62%)

- (注) 1. その他は良性腫瘍、大腸憩室、痔疾患など。  
2. ( ) 内は検便受診者数(4,561 名)に対する占率。

#### (4) 特定健康診査

特定健康診査を行った結果は次のとおりである。

性別	保健指導レベル	35～39歳		40歳～74歳		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性	積極的支援	53	14.8%	372	16.0%	425	15.9%
	動機付け支援	24	6.7%	211	9.1%	235	8.8%
	情報提供	282	78.6%	1,738	74.9%	2,020	75.4%
	計	359	100.0%	2,321	100.0%	2,680	100.0%
女性	積極的支援	6	2.4%	52	3.6%	58	3.5%
	動機付け支援	8	3.3%	88	6.1%	96	5.7%
	情報提供	232	94.3%	1,292	90.2%	1,524	90.8%
	計	246	100.0%	1,432	100.0%	1,678	100.0%
合計	積極的支援	59	9.8%	424	11.3%	483	11.1%
	動機付け支援	32	5.3%	299	8.0%	331	7.6%
	情報提供	514	85.0%	3,030	80.7%	3,544	81.3%
	計	605	100.0%	3,753	100.0%	4,358	100.0%

・特定健診は40才以上75才未満が対象だが、健保組合によっては35才以上を対象としているため、上記の年齢区分とした。

・特定健診の保健指導対象者の具体的な選定と階層化の方法

ステップ1	腹囲とBMIで内臓脂肪蓄積のリスクを判定		
	・腹囲 男性85cm以上 女性90cm以上 *	→(1)	
	・腹囲 男性85cm未満 女性90cm未満かつBMI 25以上	→(2)	
	* 男女とも、内臓脂肪面積100cm <sup>2</sup> 以上(CTスキャン等)に相当		
ステップ2	①血糖 空腹時血糖値 $\geq$ 100、HbA1c $\geq$ 5.2、服薬		
	②脂質 中性脂肪 $\geq$ 150、HDLコレステロール $<$ 40、服薬		
	③血圧 収縮期血圧 $\geq$ 130、拡張期血圧 $\geq$ 85、服薬		
	④質問票 喫煙歴あり(①～③が1つ以上該当の場合にカウント)		
ステップ3	(1)の場合	ステップ2の①～③が2つ以上該当 ステップ2の①～③が1つ該当 ステップ2の①～③が該当無し	積極的支援レベル 動機付け支援レベル 情報提供レベル
	(2)の場合	ステップ2の①～③が3つ該当 ステップ2の①～③が1つまたは2つ該当 ステップ2の①～③が該当無し	積極的支援レベル 動機付け支援レベル 情報提供レベル
	ステップ4	○服薬中の者は特定保健指導の対象としない。	
		○65歳以上75歳未満の者は、積極的支援対象でも動機付け支援とする。	

・腹囲・BMI測定結果

性別	腹囲・BMI	35～39歳		40歳～74歳		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性	基準内	216	60.2%	1,178	50.8%	1,394	52.0%
	基準外	143	39.8%	1,143	49.2%	1,286	48.0%
	計	359	100.0%	2,321	100.0%	2,680	100.0%
女性	基準内	215	87.4%	1,147	80.1%	1,362	81.2%
	基準外	31	12.6%	285	19.9%	316	18.8%
	計	246	100.0%	1,432	100.0%	1,678	100.0%
合計	基準内	431	71.2%	2,325	62.0%	2,756	63.2%
	基準外	174	28.8%	1,428	38.0%	1,602	36.8%
	計	605	100.0%	3,753	100.0%	4,358	100.0%



### (5) メタボリックシンドローム判定

生活習慣病集団検診の受診者を対象としたメタボリックシンドローム判定は次のとおりである。

性別	メタボリック判定	～39歳		40歳～		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性	基準該当	47	3.8%	410	17.2%	457	12.6%
	予備群	119	9.7%	472	19.8%	591	16.3%
	非該当	1,066	86.5%	1,506	63.1%	2,572	71.0%
	計	1,232	100.0%	2,388	100.0%	3,620	100.0%
女性	基準該当	6	1.4%	77	5.1%	83	4.3%
	予備群	10	2.3%	80	5.3%	90	4.6%
	非該当	415	96.3%	1,356	89.6%	1,771	91.1%
	計	431	100.0%	1,513	100.0%	1,944	100.0%
合計	基準該当	53	3.2%	487	12.5%	540	9.7%
	予備群	129	7.8%	552	14.2%	681	12.2%
	非該当	1,481	89.1%	2,862	73.4%	4,343	78.1%
	計	1,663	100.0%	3,901	100.0%	5,564	100.0%

・特定健診は40才以上75才未満が対象のため、39才以下と40才以上で区分した。  
但し、40才以上には75才以上も含む。

#### ・メタボリックシンドロームの判定基準

基準該当	腹囲基準値外かつ、高血圧・高血糖・脂質異常の内2項目以上抵触
予備群	腹囲基準値外かつ、高血圧・高血糖・脂質異常の内1項目抵触
非該当	腹囲基準範囲内 または 腹囲基準値外かつ、高血圧・高血糖・脂質異常の抵触項目なし
基準抵触とは	
腹 囲	男性85cm以上、女性90cm以上
血 圧	収縮期血圧130以上、または拡張期血圧85以上、または服薬中（血圧を下げる薬）
血 糖	空腹時血糖値110以上、または服薬中（インスリン注射、血糖を下げる薬）
脂 質	中性脂肪150以上、またはHDLコレステロール40未満、または服薬中（脂質を下げる薬）
* 空腹時血糖値を測定せず、HbA1cのみ測定の場合は、HbA1c5.5以上。事業団では該当なし。	

#### ・腹囲測定結果

性別	腹囲	～39歳		40歳～		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性	基準内	923	74.9%	1,261	52.8%	2,184	60.3%
	基準外	309	25.1%	1,127	47.2%	1,436	39.7%
	計	1,232	100.0%	2,388	100.0%	3,620	100.0%
女性	基準内	407	94.4%	1,310	86.6%	1,717	88.3%
	基準外	24	5.6%	203	13.4%	227	11.7%
	計	431	100.0%	1,513	100.0%	1,944	100.0%
合計	基準内	1,330	80.0%	2,571	65.9%	3,901	70.1%
	基準外	333	20.0%	1,330	34.1%	1,663	29.9%
	計	1,663	100.0%	3,901	100.0%	5,564	100.0%

### 3. 健康増進啓蒙活動

- ・生活習慣病の予防・啓蒙を目的とした講演会を開催（1月13日）した。
- ・調査研究活動として平成20年度～21年度実施集団検診結果の分析解析を行い、「平成21年度報告書」を作成した。要約版を健康増進に関する情報発信の一環としてホームページに掲載した。

### 4. 公益法人制度改革への対応

平成20年12月1日より、公益法人制度改革3法が施行され、従来の財団法人は、特例民法法人(特例財団法人)となり、平成25年11月30日までの、5年間の移行期間が設けられた。

平成22年度は、新しい制度の下での事業団における目的、事業活動、機関設計、会計・財務・財産、情報公開、内部統制などの認定認可基準との整合性の確保を目指し、定款(案)などの検討を進めた。

第165回理事会（11月17日開催）において、新公益財団法人への移行に向けた申請の要件である「最初の評議員の選任方法」の決議を行い、12月6日 厚生労働省より「最初の評議員の選任に関する理事の定める認可書」を取得した。

## Ⅱ. 理事会、評議員会に関する事項

### 第163回理事会 平成22年5月19日(水)開催

- (1) 平成21年度事業報告、決算報告(収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録)認定の件  
原案どおり認定された。
- (2) 評議員推薦の件  
津末博澄氏が選任された。

### 第45回評議員会 平成22年5月19日(水)開催

- (1) 平成21年度事業報告、決算報告の件
- (2) 平成22年度事業計画、収支予算報告の件  
(1)(2)とも全員の諒承を得た。
- (3) 理事および監事選任の件  
理事には、大島剛氏・佐野陽子氏が再任された。

### 第164回理事会 平成22年5月19日(水)開催

- (1) 理事長互選の件  
理事長には上村修三氏が選任された。

### 第165回理事会 平成22年11月17日(水)開催

- (1) 平成22年度上半期事業報告の件
  - ①平成22年度上半期の事業概況および収支計算
  - ②平成22年度下半期の事業および収支計算見込み全員の諒承を得た。
- (2) 第44回「医学研究助成」事業計画決定の件  
原案どおり決定された。
- (3) 最初の評議員の選任方法の件  
原案どおり決定された。
- (4) 事務所移転に伴う寄付行為の変更の件  
原案どおり決定された。

### 第166回理事会 平成23年3月23日(水)開催

- (1) 平成22年度事業概況および収支計画見込み報告の件
- (2) 平成23年度事業計画および収支予算案決定の件
  - (1)については全員の諒承を得た。
  - (2)については原案どおり決定された。

## Ⅲ. 理事、監事、評議員の異動に関する事項

- (1) 津末博澄氏は平成22年5月19日、評議員に就任された。